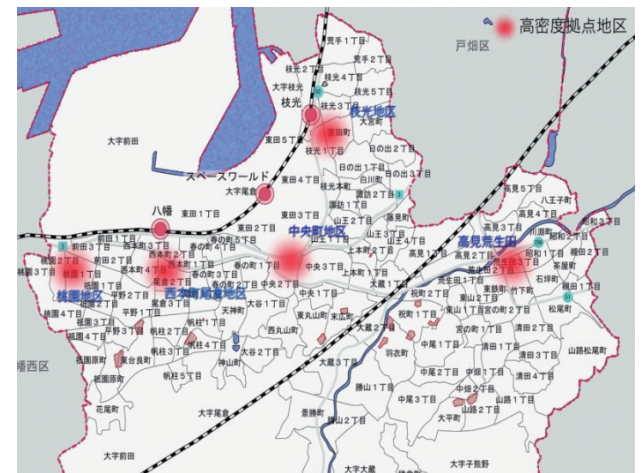


街区・都市スケールの技術開発

環境負荷低減のための 高密度都市設計に関する研究

コンパクトな街づくりのためには、車に依存する郊外型の低密度な住宅地開発を止めるだけではなく、既にバスや鉄道などの交通インフラが確立している都心部をいかに住みやすく魅力的な街として再生するかが重要である。

市街地再開発事業等の枠組みを利用し、既存の街を効率的で魅力的な住宅地となるよう職住商一体型のコンパクトな町づくりの手法を提示し、市が直面する超高齢社会を見据えた、高齢者に配慮した都心づくりの技術的な処方箋を提案する。



低炭素街区の設計手法について

私有地の集合体である従来型の郊外型街区から、私有地と共有地を複合化し、共有地における“里山”を媒介とした住民相互のコミュニティの形成をめざした低炭素街区の設計手法に関する研究を行い、街区の提案を具体的に挙げる。本研究では、限定された空間のなかでプライバシーとコミュニティを両立させた設計手法の開発をめざし、学研都市における“サトヤマビレッジ”をさらに発展させたモデルの提示を目標とする。



低炭素社会づくりを通じての 豊かな生活の創造

北九州市やNPO等と連携し、環境モデル都市認定を受けた北九州市民の意識・意欲を高める低炭素社会推進に関する全市民的運動を持続的に展開する仕組みを提案し、また、それらの行動が日常生活や企業活動の中で、「見える化」「感じる化」「お得化」などの評価システムを開発し、住民参加できるプラットフォームの整備を行う。

